

学校教育目標	社会に生きる、社会に役立つ人になるために 生きた学力(知) 健やかな心身(徳・体) よりよい人との関わり方(公・開) を育みます。				
	学校概要 創立 153 周年 児童生徒数: 324 人	学校長 佐々木 慶子	副校長 島田 志織	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 5
主な関係校: 共進中学校・日枝小学校					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	共進中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
問題発見・解決能力 自分づくりに関する力	共進中学校 日枝小学校 太田小学校	小中学校間で学習指導や生徒指導の円滑な接続を大切にし、ま ちに生きる子どもたちに必要な資質を育てる。 ○児童生徒及び小中職員の交流 ○共有のテーマを柱とし、授業研究の推進 ○児童生徒理解、特別支援教育を中心とする情報交換及び研修の実施

中期 取組 目標	○これからの社会に生き、社会とつながり、ともによりよい未来を創っていくために必要な資質・能力を育みます。 ・どの子どもが喜びを実感する魅力的な教育課程実現のために不断の授業改善を推進します。 ・子どもが自らの夢や願いをかなえるために挑戦していく問題解決的学習を展開し、成功体験を積み重ねていくことで、自己有能感と自尊感情を育みます。 ○日々の観察とデータを活用しながら子ども一人ひとりを見取り、学びの充実に生かします。 ○地域の学習財を生かした学習を展開し、児童が主体的に社会と関わり、まちを愛する心を育みます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善 担当 重点研究推進委員会	① 不断の授業改善を推進し、夢中になって学ぶ子を育てる。② ICTを効果的に活用したり、本時の振り返りを行ったりすることで、子ども自らが学習を進められるようにする。③ 対話的な学びを重視し、豊かなコミュニケーション能力と表現力を育む。④ 地域学習財の開発と地域(保護者)の教育力の活用を図る。
徳 道徳・人権教育 担当 道徳部・児童指導部	① 間違いや失敗がゆるされ挑戦的な試みが奨励される学級風土・学校風土を醸成する。② 全ての活動を通じて児童の自己実現を図るようにし、自己有能感と自尊感情を育む。③ 全教科・領域で、多様性を大切にし、自他の生命・人権を尊重し自然を愛護する感性・感覚を育む。
体 健康教育 担当 体育部	① 歯科健康教育に重点をおき、家庭と連携しながら子どもたち自身が規則正しい生活を送ろうとする態度を養う。② 子どもの思いを生かした運動会など教育活動全体で体を動かす楽しさを味わうことができるようにし、生涯にわたって運動を行う意欲や習慣を育む。
公 開 ESDの推進 担当 児童指導部	① 生活科・総合的な学習の時間を中心に人や地域とつながる学習を推進する。地域のよさや課題に気付き、自分にできることを考え実践する力を育てる。② 「人権週間」などを通して、一人一人の違いを認め合い、思いやりの心と人権意識を高める。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	① 年2回以上のいじめ防止・人権・傾聴研修を通して、全職員の感度を高める。② 日々のスタディナビ健康観察や教育相談・アンケートにより、児童の小さな変化を見逃さない体制を整える。③ いじめ防止対策委員会を毎週開催し、月1回全体共有を行い、再発・未然防止を組織的に進める。
人材育成・ 組織運営(働き方) 担当 教務部・メンターチーム	① 全職員が、児童の生命・人権を守ることを最優先に学校運営に主体として参画して働く。② 経験の浅い教職員を中心にメンターチームを組織し、ステージ2以上の教職員が指導・支援する。③ 研修や演習を通し、不祥事防止の意識を高める。④ 児童と向き合い、授業改善を業務の中心とするために校務の見直しを行う。
地域学校協働事業 担当 教務部	① 運営協議会と協働本部との円滑な連携を図り、子どもの教育のために地域・保護者・学校が協力できる体制を構築する。② 協議内容を共有し、教職員が地域と協働して子どもを育てていく意識を高める。③ コーディネーターと教員の連絡を密にし、地域の教育力を十分活用できるようにする。
特別支援教育 担当 特別支援委員会	① 児童理解に努め、職員会議や打合せで個々の児童の状況を全職員で共有し、全職員で指導にあたる。② 児童の様々な特性に応じた効果的な支援の在り方やICTの効果的な活用について学年研やブロック研、ケース会議などで検討する。③ 外部機関と連携し、センター機能等の活用を図りながら、きめ細かな指導を行う。
児童指導 担当 児童指導部・特活部	① 児童、職員それぞれが、自分ごととして規範意識を育てていけるようにする。② 関係機関(区・児相・警察等)やSCやSSWとの連携を充実させて解決への糸口をつかんだり、改善を図ったりする。③ 不登校児童の思いを聞き、ICTも活用しながら学習の継続に向けての支援を行う。
多文化共生 担当 国際教室担当	① 南区の多文化共生事業を全学年で実施し、共生の取組を推進する。② 外国につながる児童理解・支援のため、国際交流ラウンジ等の関係機関と連携を強化する。③ 児童一人ひとりの実態を把握し、特別の教育課程を編成する。日本語指導を中心に外国語補助指導員と連携して、様々な角度から支援をする。